

前期選拔出願

2020.2.7

昨日から「前期選拔出願書類受付」が始まった。2月12日（水）まで行われる。その後、2月13日（木）から2月17日（月）までが「前期選拔出願先変更」となる。

今回の県立高校入試に関しては“例年通り”ということはない。なぜなら入試制度が大きく変わったからである。中学校側も高等学校側も例年以上に緊張感をもって臨む必要がある。高校としてはなるべく多くの生徒に受験してほしいと考える。梁川高校は、ここ数年、募集定員に満たない状態が続いている。少しでも多くの生徒に来てほしいというのが願いである。その一方で、少人数だからこそ手厚い指導ができていているという一面もある。

それぞれの中学3年生は、どのような思いで今回の前期選拔出願したのだろうか。中学3年生を担当したことがある私としては、中学生に思いを寄せてしまう。もう昔のことだが、私が担当したクラスにこんな中学3年生がいた。G君とする。

G君は、野球部の中心選手として活躍していた。学習もまずまずだった。6月で部活動を引退し、受験勉強が本格的に始まった。野球をがんばっていたので、福島商業高校という選択肢があった。また、聖光学院高校という道もあった。どちらかにするのかと思いきや夏休みの三者面談で「福島高校を受ける」と言い出した。正直驚いた。その時点での成績はというと、福島高校のレベルには届いていない。かなり努力してもわからないという状況だった。

担任である私は「そうか。わかった」と答えた。「無理だ」とか「むずかしい」などとは決して言わない。三者面談で福島高校というには、それなりの覚悟や決意があったはずである。そして、何よりも物事はやってみないとわからない。若者には可能性がある。その一方で大丈夫だろうかという不安もあった。

夏休みが終わり、秋になった。G君は毎日努力していた。彼の覚悟は本物だった。だが、成績はまだまだ届かない。11月末の三者面談の時期を迎えた。とりあえず結論を出すときである。G君の答えはやはり「福島高校」だった。もしかしたら諦めるのではと思っていたが、揺るがなかった。

1月になっても2月になってもG君は毎日頑張った。睡眠時間は5時間ほどで、あとは勉強していた。この生活だと1日8時間の家庭学習が可能である。この蓄積は大きい。受験シーズンを迎え福島高校を目指す生徒たちは、みんなそれ相応の勉強時間を確保していたに違いない。だが、G君はその上をいった。後で本人から聞いたことだが、2月、3月は睡眠時間3時間でがんばったらしい。もはやナポレオンと化していた。

3月になり、入試の日を迎えた。担任である私は、たとえ不合格だったとしてもG君なら今後の人生をやっていけると思った。自分で決めたことをこれほどまでにできるのである。並の人間ではない。結果を待つ時間はドキドキだった。やはり神様は彼の努力を見てくれたのか見事に合格できた。きっと最後の最後に滑り込んだのである。それこそ入試の直前まで努力を惜しまなかったのである。

私は、中学3年生のG君から多くのことを学んだ。今回受験する中学3年生の一人一人に、G君とはまた違ったドラマがあるはずである。そう思うと、梁川高校を受験する生徒だけでなく受験生という立場に置かれている中学3年生全員にエールを送りたくなる。中学3年生の皆さん、前期選抜の学力検査は3月4日（水）である。まだまだ時間はある。ナポレオンになれとは言わないが、できることはたくさんある。G君ならばこう言いそうである。奇跡は起きるのではなく起こすものだ。皆さんの健闘を祈る。